

平成25年2月6日

各 位

会 社 名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 奥山 泰全
 (コード番号：8732 東証第二部)
 問合せ先 取締役 C F O 中西 典彦
 (TEL. 03-4540-3804)

平成25年1月次 月次概況（速報）のお知らせ

平成25年1月次の当社グループの月次概況（連結ベース）を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年 月	平成24年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	508	652	638	485	522	596	396	412	404	482	539	542
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	53,593	78,387	112,254	80,325	83,691	100,449	84,479	81,991	78,794	83,547	105,437	113,982
顧客口座数 (単位：口座)	184,260	186,877	189,570	192,007	194,315	196,680	199,051	201,086	203,125	204,938	206,375	207,859
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	37,732	36,935	39,034	41,341	43,321	42,495	43,576	43,005	42,796	41,718	41,219	41,929

年 月	平成25年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益 (単位：百万円)	639											
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	225,359											
顧客口座数 (単位：口座)	210,010											
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	42,139											

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
 2. 顧客口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
 3. 平成20年5月より代用有価証券の取扱いサービスを開始し、外国為替証拠金取引に使用できる代用有価証券の預り残高が発生しておりますが、現時点では外国為替取引預り証拠金の残高と比べ重要性が小さいため記載を省略しております。
 4. 平成20年6月より外国為替証拠金取引システムのホワイトラベル提供に伴う実績数値が発生しており、当該数値を以下のとおり取り扱っております。

- (1) 営業収益 : ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益を含めて表示しております。なお、当該収益の会計処理は、当社グループ会社をカウンターパーティとする外国為替取引に係るトレーディング収益を営業収益として全額計上した上で、当社グループ会社からホワイトラベル提供先に対して支払うべき外国為替取引に係る手数料を販売費・一般管理費に計上する方法によっております。なお、ホワイトラベル提供に伴うトレーディング収益と当社グループ顧客との外国為替証拠金取引に伴うトレーディング収益を区分することができないためこれらを区分しておりません。
- (2) 外国為替取引高 : ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社をカバー取引先とする外国為替取引を含めて表示しております。なお、当該取引高は提供先の重要情報に該当するため区分して表示していません。
- (3) 顧客口座数 : ホワイトラベル提供に伴う口座数は含まれておりません。
- (4) 外国為替取引預り証拠金 : ホワイトラベル提供に伴い発生する当社グループ会社がカバー取引先として受け入れる預り証拠金を含めて表示しております。なお、当該金額は提供先の重要情報に該当するため区分して表示していません。

5. 平成21年7月より株式会社大阪証券取引所の開設する取引所外国為替証拠金取引（愛称「大証FX」）のマーケットメイカーとしての業務を開始しており、大証FXにおける取引高及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
6. 平成23年8月より差金決済取引（CFD）の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高（原取引単位を米ドルに換算）及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
7. 平成24年12月次の営業収益について、数値の確定に伴う修正を行っております。

< 1月次の概況 >

1月の外国為替市場は、米ドル/円については、1ドル=86円台後半で取引が始まり、米国のいわゆる「財政の崖」問題が回避されたことや堅調な米国各種経済指標等を受けドル高円安傾向で推移し、その後本邦11月経常収支の予想外の大幅赤字などを受けて円売りが加速し21日には平成22年6月以来の90円台に乗せ、さらに月末には日銀の金融緩和への思惑が強まった結果、91円台後半で月末を迎えました。米ドル/円の変動率は、平成22年5月のいわゆるギリシャ・ショック以来の高い水準となりました。また、米ドル/円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨についても、概ね米ドル/円と同様に円安基調での相場推移となり、米ドル/円を含めた全体としての変動率も平成22年5月以来の高い水準となりました。

このような状況の中、外国為替取引高は、円安トレンドの継続によるポジションの組替・再構築等の動きに加え、変動率の高まりを受けて超短期取引が著しく増加したことから、前月比約98%増加の225,359百万通貨単位となりました。一方、営業収益は、相対的に取引高当たり収益性の低い米ドル/円等の取引高の割合が著しく増加したことや超短期取引の増加に伴いカバー効率が低下したこと等による取引高当たり収益率の低下が取引高増加の影響を減殺し、前月比約18%増加の639百万円となりました。また、顧客基盤については、顧客口座数は円安の進行に伴う外国為替証拠金取引への注目の高まり等により前月比2,151口座増加の210,010口座となったほか、外国為替取引預り証拠金は一般顧客による預託金の積み増し等があった一方金融法人顧客による余剰預託金の出金があったことにより前月比ほぼ横這いの42,139百万円となりました。

以 上